

課外活動の継続・退部要因
—特にBSSCの学生について—

杉山 典子 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：課外活動 退部・継続要因

1. はじめに

近年、子どもの体力は①学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による外遊びやスポーツ活動時間の減少、②空き地や生活道路といった子どもたちの手軽な遊び場の減少、③少子化や学校外の学習活動による仲間の減少など、を理由として低下傾向にある。課外活動には、様々な実践効果があげられ(①体力向上②子どもの生活習慣病予防③ライフスキルの取得など)、児童・生徒の健全な人間形成を培う場となっている。こうしたことから文部科学省は、スポーツ立国戦略の中で課外活動の充実を叫んでいる。

ところが、このような国の政策やメリットがあるにもかかわらず、課外活動の中途退部者が数多くいる。そこで、本研究は中途退部要因とその継続性について調査し、将来的なスポーツへの関わり方について考察した。

2. 研究方法

児童を取り巻く環境に関する文献調査

課外活動の経緯等の文献調査

アンケート調査 (対象者：本学学生[回収率全学生数の66%・882/1333人])

3. 結果と考察

表1に示したように学生と指導者タイプを分類し、関連性を調査した。

「指導者が合わなかった」と回答した男子のA群、B群の指導者タイプは、ともに放任型と専制型が多く、全体の約80%を占めた。また、

表1 学生と指導者の分類

学生	A群	退部経験がある
	B群	退部を考えたことはあるが、退部経験はない
	C群	退部経験はない
指導者のタイプ	放任型	選手とコミュニケーションがとれていない。目標達成の意欲も低い。
	専制型	選手とコミュニケーションがとれていない。目標達成の意欲は高い。
	融和型	選手とコミュニケーションが上手くとれている。目標達成の意欲は低い。
	民主型	選手とコミュニケーションが上手くとれている。目標達成の意欲も高い。

A群の女子は専制型が47%、融和型が18%、B群は専制型が66%である。男女ともに退部に関連する指導者タイプは専制型が多い。

表2 「怪我・病気のため」を回答した生徒の指導者タイプ

	「怪我・病気のため」を回答	放任型	専制型	融和型	民主型	指導者なし
A群 男子	25	6	12(48.0%)	4	2	1
A群 女子	7	1	4(57.1%)	0	2	0
B群 男子	51	3	29(56.9%)	7	16	3
B群 女子	26	4	10(38.5%)	1	7	1

表2では怪我・病気がきっかけで退部に至った時の指導者タイプは、約50%が専制型であった。このことから、専制型タイプは過度な強要が影響し、児童・生徒の怪我・病気につながっていることが推測される。

その他の退部要因としては「選手間のコミュニケーション」「生活時間の圧迫」「金銭面」等がある。

4. まとめ

課外活動を途中で辞める要因は様々あるが、特にその時の指導者が影響しているケースが多い。上述したように指導者は指導法に配慮しながら、取り組む姿勢が必要である。

参考文献

文部科学省 (2008) 「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告」